

平成26年度研究成果報告書《平成25・26年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・ 指定都市番号	35	都道府県・ 指定都市名	山口県	研究課題番号・校種名	5（1）小学校
				領域名	伝統文化教育
研究課題	新学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究 (1) 学校全体としての各教科等の連携による体系的な伝統文化に関する教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名（児童生徒数）	やまぐちけんいわくにしりついわくにしょうがっこう 山口県岩国市立岩国小学校（802名）				
所在地（電話番号）	〒741-0062 山口県岩国市岩国三丁目1番18号				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://www.iwe.edu.city.iwakuni.yamaguchi.jp/">http://www.iwe.edu.city.iwakuni.yamaguchi.jp/</a>				
研究のキーワード	地域マテリアル 岩国小教育カリキュラム 学校支援ボランティア 郷土愛 伝え合う喜び				
研究成果のポイント	地域マテリアルの開発、教育課程の編成、伝統文化教育カリキュラムの作成を行い、伝統文化に関わる学習を展開していくことが可能になった。2年間の取組を通して、児童は、自分の身近な地域の伝統文化についての学習に興味・関心をもって取り組み、郷土を愛し、誇りに思う気持ちを高めることができた。				

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

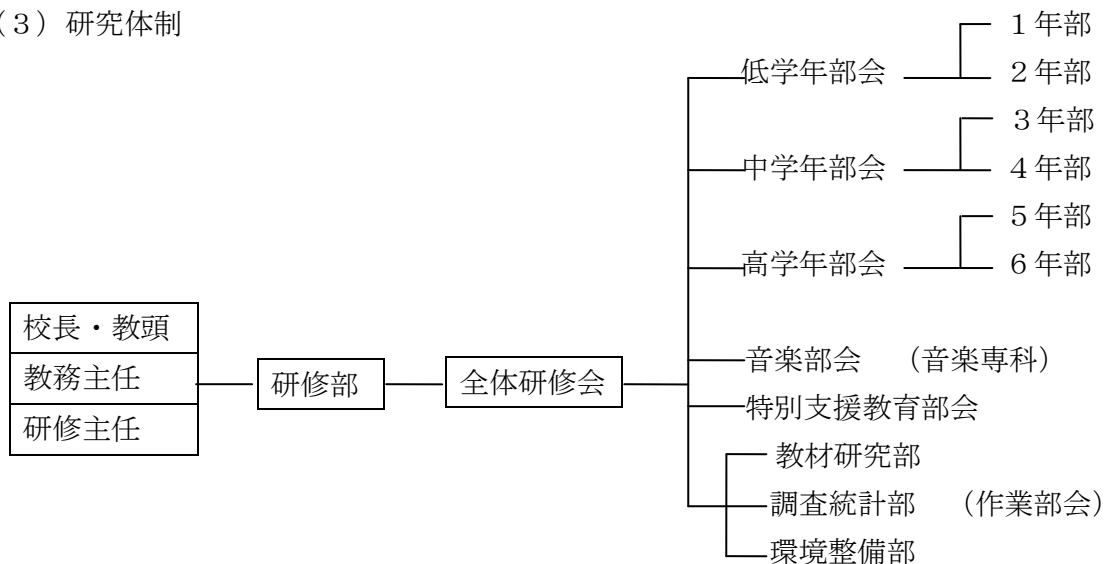
地域のヒト・モノ・コトを生かした学びの創造  
 ～日本の伝統文化を基軸とした岩国小教育カリキュラムの構築～

### (2) 研究主題設定の理由

本校の校区には、岩国城の城下町として整備された古い町並みが残っており、錦帯橋をはじめとする文化財や歴史資料館などが数多く存在している。また、岩国郷土料理「岩国寿司」「おおひら」や伝統野菜「岩国赤大根」「笹川錦帯白菜」など、伝統的な食文化も残っている。また、錦帯橋祭りでの大名行列や錦川の鵜飼、南条踊や小糠踊、四季折々の年中行事などが地域の人々の熱心な保存活動により営まれている。

このように、伝統文化との関わりを大切にした教育を充実させようと意図すれば、魅力ある教材開発を可能とする豊富な地域素材（地域マテリアル）に恵まれた条件に囲まれている。このような条件を生かし、本主題を設定した。「自分の身近な地域や市、県、国の伝統文化の価値を正しく理解し、誇りに思い、互いに伝え合う喜びをもった子供」の育成を目指すと共に、今日求められる授業づくりについて研究を進めてきた。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成 25 年 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究テーマの検討，学年のテーマ設定，年間指導計画の見直し，地域の伝統文化に関わるカリキュラム作成</li> <li>○教職員全体や各学年での現地調査，見学による地域マテリアルの教材化</li> <li>○伝統文化に対する児童の意識調査アンケートの実施・分析</li> <li>○児童の興味・関心を高めるための岩国のコーナー設置，岩国小イメージキャラクター作成</li> <li>○授業公開（1・4年指定授業，6年ちびっ子ガイド公開） 「指導者：文部科学省 赤堀博行調査官」</li> </ul>
平成 26 年 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伝統文化教育を位置付けた教育課程の編成</li> <li>○現地研修の充実（観光ボランティアや学芸員の指導による教職員の校内研修）</li> <li>○外部講師との連携のためのネットワークづくり</li> <li>○校内環境の整備（児童の興味・関心への啓蒙活動）</li> <li>○伝統文化教育カリキュラムの作成と地域マテリアルの教材化</li> <li>○児童アンケート調査実施</li> <li>○研究発表大会（6年ちびっ子ガイド公開，1～5年部・音楽部指定授業） 「指導者：文部科学省 赤堀博行調査官」</li> </ul>

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- 教育課程の編成  
伝統文化を踏まえた教育全体計画，各教科・領域の年間指導計画の整備
- 現地研修（教職員）  
観光ボランティアや学芸員の指導による錦帯橋や名所等の現地研修
- 外部講師との連携のためのネットワークづくり
  - ・学校支援ボランティアの登録，活用，岩国市の徴古館や吉川資料館の学芸員との連携
- 校内環境の整備
  - ・図書室，各学年掲示板等，伝統文化に関わる内容についての紹介の場の設定
  - ・岩国小イメージキャラクターの作成

- 伝統文化教育カリキュラムの作成と地域マテリアルの教材化
  - ・各学年伝統文化教育カリキュラム（クロスカリキュラム）一覧作成
  - ・授業づくりにおける児童に付けたい5つの力の設定
- 児童アンケート調査
  - ・児童の伝統文化に対する意識の変容の分析
- 研究発表大会に向けての授業づくり
  - ・校内研修や同学年研修による地域マテリアルの教材開発に基づく授業実践

## (2) 具体的な研究活動

### ○教育課程の編成

伝統文化教育の目標や目指す児童像、各教科・領域における指導の機会等を明確にし、地域の伝統文化を踏まえた教育全体計画の作成や年間指導計画の整備を行った。本年度は、各教科の中の伝統文化に関わるものだけを抜き出し、重点的指導事項を明確にした。また、道徳の副教材「私たちの道徳」からも伝統文化に関連する題材の位置付けを行った。

### ○現地研修（教職員）

現地研修により、地域を知り、正しい知識を得ることができた。また、どのような地域マテリアルが存在するのか、その歴史や価値を観光ボランティアや学芸員から直接学ぶことにより理解が深められ、地域マテリアルの教材化、授業づくりがスムーズに進められた。

### ○外部講師との連携のためのネットワークづくり

学校支援ボランティアの登録や岩国市の徴古館や吉川資料館の学芸員との連携により、地域と学校が密接な関係を築くことができ、効果的な授業の展開が可能になった。

### ○校内環境の整備

環境整備部が中心となり、名所旧跡めぐりの地図や岩国ゆかりの人物の掲示や岩国のコーナーの作成を行った。図書室に掲示することで、多くの児童の目に触れ、岩国の町割りや歴史的建造物に興味関心を示す児童が増えた。岩国小イメージキャラクターの作成及び活用も児童の伝統文化への興味関心を高めるのに効果的だった。

### ○伝統文化教育カリキュラムの作成と地域マテリアルの教材化

伝統文化教育カリキュラムの作成により、各学年の重点的取組事項が明確になった。伝統文化学習の集大成である「6年ちびっ子ガイド」に向けて児童にどのような力を身に付けさせるかを教職員全体で共有した。また、伝統文化学習を進める上で、児童に付けたい5つの力を設定し、授業の中で児童の姿の具現化を行った。

### ○児童アンケート調査

児童の伝統文化に対する意識の変容の分析を行うことにより、児童の興味・関心を知り、伝統文化に対する取組の方法を考える手立てにすることができた。分析の結果、児童の伝統文化への興味・関心は確実に高まってきたこと、また、身近な地域についての知識理解を深め、郷土を愛する心、誇りに思う気持ちが高められたことが分かった。今後も授業実践を通して、児童の変容を把握し、次の目標を明確にすることに役立てていきたい。

### ○研究発表大会に向けての授業づくり

4月より、各学年部で、地域のヒト・モノ・コトを生かした教材開発に取り組み、指導内容や指導方法についての実践的研究を行い、授業づくりに取り組んできた。11月の研究発

表大会においては、6年ちびっ子ガイド、1～5年部、音楽部の伝統文化教育の取組実践紹介の場を設定し、取組の成果と課題について明らかにすることができた。

### 3 研究の成果と課題

#### (1) 成果

##### ○児童の伝統文化教育への興味・関心の高まり

地域の伝統文化に対する児童の興味関心は確実に高まっている。現地研修を重ねることで教職員が地域の伝統文化を深く学び、児童に教えたいという思いが強くなった。

##### ○伝統文化教育カリキュラムに基づく地域マテリアルの教材開発

地域マテリアルをどのように教材化することが児童の興味関心を喚起するのか、教職員が話し合いを重ね、同じ教材でも様々なアプローチの仕方があることを学んだ。

##### ○他教科との関連（クロスカリキュラム）

伝統文化学習には他教科との深い関連があること、教職員の側がリンクさせようと意図すれば、様々な教科に発展させることも可能であることが明確になった。

##### ○言語活動の充実を目指す授業展開

調べたことを発表するだけでなく、友達と意見交換し合い更に充実した情報へと深化させていくこと、また相手が一番知りたい情報は何なのかを盛り込んだ内容にすること、相手からの要求に応えようとする力が、2年間で少しずつ育ってきた。

#### (2) 課題

##### ○伝統文化教育の継続

伝統文化教育カリキュラムに基づいた教育の推進のための資料収集を生かし、学年での共通理解のもと、同一歩調で授業づくりを進めていくことが必要である。引き続き岩国市の歴史や伝統を正しく理解し受け継ぐと共に、それを継承発展させるための未来を創造する力を養えるような授業の展開をしていかねばならない。

##### ○地域マテリアルのさらなる教材開発

2年間で開発した教材だけでなく、今後も教材開発を続け、児童の興味関心に応じた教材を提示できるようにしておくことが必要である。

##### ○伝え合う力を付けるための指導の充実

あらゆる機会を捉え、児童のコミュニケーション能力の向上や伝え合う力の育成を目指していかなければならない。

##### ○行政との連携

地域の環境整備については、行政と学校との連携が不可欠だと考える。児童の文化財に対する愛着をさらに深めていくために、しっかりと連携を図っていく必要がある

#### (3) 指定期間終了後の取組

2年間の研究の成果と課題を踏まえ、教職員が一丸となって、郷土を愛し、誇りに思う心をもった児童の育成に努めていきたい。